

オンラインスピーキング授業の導入について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: OKITA, Masahito, YAGI, Takehiko メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4316

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



オンラインスピーキング授業の導入について

樟蔭高等学校 英語科教諭 大喜多 正仁・八木 岳彦

1. はじめに

本校では、今年度よりオンラインでのスピーキング授業を導入した。まずは、導入までの手順を示す。株式会社ベネッセコーポレーションが提供する **Online Speaking Training** というサービスを利用することを教科会議で決定し、実際に本校での実施が可能かどうかの検討を行った。パソコンの動作確認が中心であったが、具体的には、40人の生徒が情報教室で同時にパソコンで当該のサービスに接続しても動作に影響がないかどうか、**Skype for Business** が正常に使用できるかどうか、画像や音声に問題はないのかなどの確認作業であった。また、オンラインでの授業のために、マイクやカメラなどが必要となり、それらの購入もした。機器等の問題がないことを確認後、実施を正式に決定した。教員が次にすべきことは、レッスンの予約であった。本校では、高校2年生の7クラスを対象にしたので、それぞれのクラスのレッスンを年12回予約した。このサービスでは、講師の数が限られているため、早めに予約することが非常に重要である。予約が完了すれば、あとは実際のレッスンを待つのみとなる。

なお、**Online Speaking Training** とは、フィリピンのセブ島の外国人講師がスピーキングの相手で、生徒と講師の1対1の授業である。あらかじめ用意されたテキストを使用する1回30分の完結型で、レッスン前の日本人教員による通常授業で予習を行うことにより、スムーズにオンラインでの英会話に取り組むことができる。

2. 実際の授業に関して

教室にいながら、直接ネイティブ・スピーカーと話すことができる。今まで夢にも思わなかった、こんな素敵な体験が **Skype** を使って実現可能となった。幾度かの試行を経て、2017年度の2学期から本格実施したこの授業は、

高校2年生の児童・フードスタディ・進学コースの生徒たちを対象に、週に1回程度の割合で行っている。

生徒にとっては、コンピュータへのログインや Skype for Business へのアクセス等、事前準備としてコンピュータ自体の作業が必要であるが、そこは「情報」の授業で慣れたもの。スイスイと操作してネイティブの先生からのアクセスを待つ。待っている間に『Online Speaking Training』という本校独自のテキストを予習。あらかじめ取り組むレッスンが決まっているので、そのレッスンを読んだり、「お助けフレーズ」という困ったときの言い方が掲載されたページを見たりして、生徒たちはレッスンが始まるまでの時間を過ごす。

そうこうするうちに、ネイティブの先生からのアクセスが1人また1人とつながり、つながった生徒からヘッドフォンを装着し、小さなマイクを握りしめ、相手が話す英語を必死になって聞き取ろうとする。それまでの教室では日本語しか聞こえなかったのが、一瞬にして英語オンリーになる瞬間である。この瞬間がとても素敵で、教員としては何回経験しても大好きなときである。

前述のとおり、Skype 英会話の時間は30分間。この30分で主にテキストに記載された文章を音読したり、簡単なトピックについて会話をしたり、時間が余ればフリートークを楽しんだりする。英語が苦手な生徒もいるが、皆が自分の英語力を駆使して会話を楽しんでいる。

3. 生徒の感想

1つのクラスに感想を書かせた。抜粋を紹介するが、最初は講師が何を言っているのかさっぱりわからなかった生徒も、回を重ねるごとに少しずつ理解できる言葉が増え、自分が言ったことが相手に通じたときに喜びを感じたという感想を持った生徒が多数いた。これこそが、この授業が目指したことの1つではなかるうか。

授業の感想（抜粋・一部改変）

- ・ 最初の頃よりは落ち着いてきましたが、話すことは慣れるのが難しいです。
- ・ 回を重ねるごとに楽しくなった。自分が言った英語が通じたときがとてもうれしかった。

- ・ 回数を重ねるごとに聞き取れるようになってきた。早く進められようになって、フリートークができる時間を多く取れるようになった。
- ・ 最初はわからなかったことが、やっていくうちに今では理解できるようになり、質問ができたり、自分のことを英語で言える内容が増えて、対話を楽しいと思えるようになりました。
- ・ フリートークはもう少し頑張らないといけないと気づいた。英文を日本語訳するのが、少しだけ早くなった。
- ・ 毎回緊張するし、わからないことが多いから、リスニングをもっと勉強しようと思った。
- ・ 講師の英語の発音がペラペラすぎて聞き取れないときもあるけど、聞き取れて話が通じると楽しい。
- ・ まだわからない言葉があるので、なくしていきたいです。
- ・ 英会話を気軽にできるのはすごい。自分には役に立ったので良かったです。
- ・ 英語は、国が違っても相手と話すことができ、仲良くなれる、すばらしすぎる言葉だと思いました。
- ・ 英語がわからないから、全然理解できませんでした。
- ・ できることならもうやりたくない。いつもの言語が通じないというのが恐怖で仕方がない。
- ・ 良い講師と悪い講師の差が激しすぎる。
- ・ 英語が聞き取れないし、英語の文章を作れなくて単語で答えてしまう。
- ・ 英語で話すのが難しい。相手が何を言っているのか、あまりわからない。
- ・ 聞き取れない単語があるし、早口すぎて、なかなか聞き取れない。
- ・ 楽しいけれど、頭が痛くなる。講師の声が小さく、早口でしゃべられて疲れた。
- ・ 相手が言っていることはわかったけど、自分が答えるときにうまく言えなかった。
- ・ 画面が見えなかったり、声が聞こえなかったりするものが何回かあって、やりづらかった。

4. まとめ

人と人との対話とは、お互いの発話内容を理解し、意見を述べ、それに対してまた自分の意見や感想を述べあう。この繰り返しが基本である。実施後、半年も経過していないこの授業では、まだテキストを用いて、あらかじめ設定された英文やテーマを土台に練習している最中であり、生徒たちが自由に発話できているとは言い難いのが現状である。しかし、この授業での経験を積み重ね、英語を使って意思疎通ができる生徒が1人でも多くあらわれることを期待して、これからもこの授業を発展させていきたいと考えている。